読書感想文コンクール

第４回読書感想文コンクールに市内の小・中学校、高校および一般の皆さんから合わせて３０９点の応募がありました。その審査結果と特選作品をご紹介します。

■第1部

『鹿島紀行』を読んで

一般　福沢　義男さん

芭蕉が諸国行脚によって自らの俳諧芸術を高めたことはよく知られるが、彼の教養の深さにどれほどの人が気づき、敬服しているのだろうか。『奥の細道』をはじめ、さまざまな紀行文や俳文を読めば、唐の李白・杜甫の詩句の引用が多く、古典への造詣の深さに驚愕の念を禁じ得ない。『鹿島紀行』を熟読して、花鳥風月を重んじる日本文化を一層会得できた私にとって、思いも寄らず収穫豊かな夏となった。平安期の歌人西行法師への憧れと、盛唐の詩人への敬慕の念に彩られた俳諧紀行文に、芭蕉の芭蕉たる所以をはっきりと見ることができ、平安・鎌倉期の作品を渉猟しながら、先人への敬意を抱いて伝統を継承し、旅を通して芸境を深め、俳諧の新しみにも挑戦した芭蕉にこの上なく敬虔な気持ちを持ってしまう。泰山北斗の俳人に憧憬は尽きない。

古くから旅立ちを意味する鹿島立ちの由来が、武甕槌神を祀っている鹿島神宮にあった。「この秋鹿島の山の月を見むと思ひ立つことあり」と決意を固め、旅立つ芭蕉は、須磨の月を見に行った貞門派の俳諧師・安原正章を偲び、昔を懐かしく思いながら、鹿島の山の月を見ようと思い立つ。『源氏物語』に纏わる須磨の月を意識して、鹿島の山の月と言ったのである。こういう技巧は他の紀行文にも多く見られ、いかに芭蕉が先達の文学作品を念頭に置き、微に入り細を穿ち自らの作品に取り入れているかがよく分かる。月を眺めて、もの思うリリシズムは日本伝統のもので、芭蕉は姨捨の月を『更科紀行』に見、『奥の細道』に「松島の月まづ心にかかりて」と綴ってその心情を吐露した。

古来、多くの文人墨客が月を眺めて、もの思いに耽り、詩歌に託してきた。「かぐや姫」から萩原朔太郎まで、文学に月は必ず登場して、熱海の海岸で恨みの涙をこぼした貫一もいた。ドビュッシーは月の光を旋律にのせ、バイロンはレマン湖の月を謳歌する。石山の月を愛した芭蕉は、琵琶湖を洞庭湖に見立て、尊敬する唐の詩人に心を寄せた。李白の月は芭蕉の衣鉢だった。

死にものぐるいで諸国を巡り、月の美しさに心奪われた芭蕉は、霞を食う仙人でもなければ、孤高を衒う奇人でもない。正鵠を射る内容を俳文に盛り込み、一蓮托生の雲水と浪人を伴って鹿島詣でに出で立つ旅姿に、常人の域を超えた芸術家としての誉れを私は垣間見る。肝心の月が見られなかった鹿島で、芭蕉は脾肉の嘆を味わい、「はるばる月見に来る甲斐なきこそ、本意なきわざなれ」と述べる。鹿島の月を見られなかった悔しさは底知れず、清少納言がほととぎすの歌を一首も詠めなかった話を出して、句を作れなかった自分を慰めてい

「第４回読書感想文コンクール」審査結果

※敬称略

【特　選】

◉第１部＜高校生・大学生・一般＞
福沢義男（一般）

◉第３部＜小学生＞
中野朝馨（府中小２年）　栗原理（三田小４年）

【入　選】

◉第１部＜高校生・大学生・一般＞
石橋容子（一般）　磯島毅（上野高校２年）
前田恭兵（名張高校２年）

◉第２部＜中学生＞
福井花奈（成和中１年）　西岡知美（崇広中２年）
前利佳（桃青中２年）　山中瑠莉（崇広中３年）
五嶋亜友美（霊峰中３年）

◉第３部＜小学生＞
北出穂乃果（壬生野小１年）　大田美空（青山小１年）
金谷和穂（壬生野小２年）　松本奈緒（河合小２年）
垣内政真（久米小３年）　安田祐士（上野東小４年）
楠本海斗（府中小４年）　岡田空（青山小４年）
中田浩季（青山小４年）　三枝佑利（上野東小５年）
前川拓也（府中小５年）　奥村勇祐（神戸小５年）
渡邉千愛美（丸柱小５年）　松尾文香（西柘植小５年）
杉本陸（上野東小６年）　沖山茉優（新居小６年）
上嶋祐香（依那古小６年）　藪中柚輝（依那古小６年）
細見広美（青山小６年）

る。人間味あふれる芭蕉がここに見られて好もしい。俗世間と隔絶した根本寺で、仏頂和尚の世話を受け、詩禅一致の方法を身につけたのかもしれない。風雅に徹する芭蕉の真髄は、何よりも月の句を詠むことにあった。人生には、変貌を遂げるものと未来永劫にわたって変化しないものがあるが、月を愛でるという風習こそ永久に変わらないものの一つである。田毎の月も江戸の月も。

各地の歌枕を訪ねて月を眺めることを第一の目的とした芭蕉は、旅寝の果てに森羅万象への直観的把握を夢見て、自由闊達な新風の模索に精進したのだ。彼の俳諧芸術は、先人の換骨奪胎でもなければ糟粕をなめるものでもない。鹿島詣でにおける永遠への希求は、仏頂和尚との再会による禅宗への開眼と結びつく。どれほど旅に憧れ、名所旧跡に心惹かれたことだろうか。俗人には間尺に合わない旅であっても、芭蕉にとっては蕉風俳諧を広め奥義を究めるものだった。浅草観音の大屋根が見える深川の草庵に隠棲することから脱皮して、造化に帰る行脚生活を基軸に飄飄と生きる芭蕉の前途は、たとえ危殆に瀕するものであっても、遥か三千里への思いを胸に旅立つ情熱の賜物であった。俗塵を打ち払う鹿島の旅も、内面を充実させ、運命随順の荘子的世界を確実にする一つの手立てでもあったと思う。荘子は芭蕉の一つの理想像である。

私が芭蕉の鹿島詣でに強く惹かれるのは、旅の空に魂の癒しを求めて、雪月花を尊び、月を愛でるという文学伝統を踏襲しながら、荘子と禅の世界に心血を注ぐ俳聖の姿が見られたためである。月見に興じることの多かった元禄４年。瀬田川に船を浮かべて月を仰いだ後年の芭蕉とは明らかに違う姿が貞享４年の鹿島神宮に合掌して、和尚と会って禅的世界を志向した芭蕉は、同年10月から翌年４月にかけて初めて風羅坊と自称する『笈の小文』の旅に出る。郷里の伊賀上野で年を越した。十七文字の芸術に生き、人生の規矩準縄が古人の生き方にあることを認識した芭蕉は、行住坐臥、旅に生きた西行の和歌や高僧の深遠な哲理に心を傾けていた。魂の拠り所は好きな近江の国や月の名所にあった。幾山河を越え、句を彫琢しながら金剛不壊の不易流行論をひっさげて、私も芭蕉のように鹿島詣でをしたいと思う。

■第３部　オランウータンの森

府中小学校２年　中野　朝馨さん

図書かんで、すてきな本を見つけました。「オランウータンの森」です。オランウータンの親子のしゃしんがのっていました。私はとても楽しみに読みました。オランウータンは、インドネシアやマレーシアのねったい雨林の森でくらしています。「森の人」と言われるくらい、人間にもっとも近いどうぶつなのだそうです。今、オランウータンのすむ森が大へんなことになっているのです。ねったい雨林では、ふつう山火じはおきません。だけど、人が木を切りすぎたせいで山火じがおきるようになりました。森がかんそうしてしまったためです。オランウータンは森でしかくらせません。食べるものも森にしかありません。森

がなくなったら、オランウータンは生きていけないのです。私は本を読んでいるうちに、この本に出てくるお母さんオランウータンと子どものジョハンのことが、とても心ぱいになりました。そして、どうしたらオランウータンがあん心して森でくらせるだろうと思いました。私はこの本を読むまで、森の木が人間によってこんなにたくさん切られているなんて知りませんでした。とてもびっくりしたし、かなしい気もちになりました。

本を読んだあと、お母さんと木についてしらべました。オランウータンの森で切られた木はどこにいってしまったのか、知りたくなったからです。しらべてみると、日本でたくさんつかわれていました。わりばしもそうです。レストランに行くと、たいていわりばしをつかいますが、食じがおわった後はごみとしてすてられてしまいます。木は何十年もかけて大きくなります。なのに、それを私たちは30分ぐらいつかっただけでごみにしてしまっているのです。何十年も生きてきたのに、こんなつかわれ方をされたら、木もかなしいだろうなと思います。また、木が私たちにしてくれることもたくさんわかりました。水をたくわえて空気をきれいにしてくれます。木のねは、土しゃくずれをふせいでくれます。木がなくなると、オランウータンだけでなく、私たちも生きていけないことがわかりました。

この間、私はキャンプに行きました。そこにもみじの木があり、ねもとに小さな木のめをはっ見しました。もみじの赤ちゃんが生まれていたのです。これから、何十年もかけて大きくなるんだなあと思うと、とてもうれしく大切ないのちだと思いました。だけど知らない子が来て、木のめをぶちっとぬいてしまいました。私はかなしくてないてしまいましたが、後でその子は木がそんなに大切なものだと知らなかったのだろうと思いました。その子だけでなく、もしかしたらたくさんの人が木の大切さを知らないのかもしれません。私は木の大切さを人につたえたいと思いました。オランウータンの親子をまもるために、そして地きゅうにたくさんの森がいつまでものこってくれるように、私はたくさんの人に言いたいです。「木は大切なんだよ。木はみんなをまもってくれているんだよ」と。

■第3部
『五体不満足』を読んで

三田小学校4年
栗原（くりはら）　理（さとる）さん

僕は、この夏読んだ本の中で、一番記憶に残った本について紹介します。

この本は、「五体不満足」というタイトルで、その表紙が僕にこの本を読むきっかけを与えてくれました。その表紙をみると、両手と両足がない、車いすに乗って、にこやかな笑顔をしている男性の写真が写っていました。僕は、その男性が両手と両足がないのに、どうしてこんなにすてきな笑顔でいられるのか不思議に思いながら、またその理由を知りたくてこの本を読み始めました。

この本を読むにつれて、最初に感心したことは、乙武さんは両手と両足がないのに、小さいときから野球・アメフト・バスケットボールなどの色々なことに興味を持ち、挑戦してきたことです。野球は、両手がないと、バットを持ったりボールを受けて投げたりすることができないスポーツです。普通であれば、両手と両足がないと、最初から野球をすることをあきらめてしまうのに、乙武さんは違いました。「誰にも負けたくない」という強い気持ちと何事にも失敗を恐れずに挑戦するチャレンジ精神が、乙武さんを支え、色々なスポーツに挑戦することを可能にしたのではないかと思いました。「もしも、自分が乙武さんの立場であれば同じことができただろうか」と考えました。今の僕には、両手と両足がなければ乙武さんのように何事にも明るく、前向きにチャレンジすることなんて、とてもじゃないけどできないと思いました。

「障害を持っていても、ぼくは毎日楽しいよ」「僕には、人に負けないものがある。それは手足がない」という乙武さんの言葉がありました。障害があれば、ついついそのことを悪く考えてしまうことが多いのに、乙武さんは、「障害を持った人間しか持っていないものというのが必ずあるはずだ。そして、僕は、そのことを成し遂げていくために、このような身体に生まれたのではないかと考えるようになった」というように、障害のあることをプラス思考で前向きに考えられるところは、本当にすごいと思いました。

本の表紙に写っている乙武さんが笑顔でいられる理由がわかりました。それは、自分らしさを見失わずに、自分に誇りを持って生きているという満足感からくるものではないかと思いました。

障害を個性として受け止められる性格、自分にできることを精一杯しようとする強い意志、そして、不思議なほど明るい乙武さんの姿は、僕に勇気を与えてくれました。

「その人しかできないことは、必ず誰にもある」とも乙武さんは言っています。社会は、それぞれに違った者同士から成り立っているので、お互いに助け合い、その中で自分の役割があるのだと思います。自分ができないことをくよくよ考えるのではなく、自分ができることは何か、そして今、自分ができることを精一杯、前向きにチャレンジしていくことの大切さを、この本は僕に教えてくれました。

■ 上野図書館☎ 21-6868
■ いがまち公民館図書室（いがまち公民館内）☎ 45-9122
■ 島ヶ原公民館図書室（島ヶ原会館内）☎ 59-2291
■ 阿山公民館図書室（あやま文化センター内）☎ 43-0154
■ 大山田公民館図書室（大山田教育センター内）☎ 47-1175
■ 青山公民館図書室（青山公民館内）☎ 52-1110

図書館だより

Library Information

★新着図書紹介（上野図書館）

■一般書

『赤塚不二夫』（河出書房新社／発行）

ギャグマンガの巨匠・赤塚不二夫についての論考集です。タモリら、赤塚さんにゆかりのある人々へのインタビューや、初期の作品も掲載されていて、読みごたえがあります。

■児童書

『大ドロボウ　石川五十五えもん』（吉田純子／作）

伝説のどろぼうの血を引く３兄弟・五十五えもん、五十六えもん、五十七えもんは、まだ一度も、どろぼうに成功したことがありません。そんな３人が、次のターゲットに選んだのは、なんと「どろぼうをつかまえる名人」の家。どろぼうは成功するのでしょうか？

■一般書『ふたりが遺したラブレター
親の家を片づけながら』（リディア・フレム／著）

両親を亡くした著者が、遺品の中から見つけたのは、８００通にも及ぶラブレターでした。戦争と病に阻まれながらも、愛をはぐくんでいった両親の姿に、著者は何を思うのか・・・。前作『親の家を片づけながら』も、あわせてどうぞ。

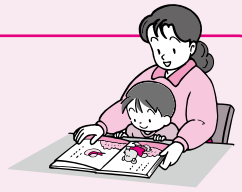
■児童書

『おでんさむらい　ちくわのまき』
（内田麟太郎／文、西村繁男／絵）

へんてこざむらい、ひらた・おでん。今日も、おとものかぶへいと、おでんをもぐもぐ。そんな　ひらた・おでんの前に、子どもをさらわれたという母親が・・・。

おでんさむらいの絵本シリーズ、最新作です。

図書館情報システム更新に伴う利用の拡大について



図書館情報システムの更新に伴い、上野図書館・阿山公民館図書室・大山田公民館図書室以外に昨年の１２月１６日から、青山公民館図書室もネットワーク化しました。

各図書館・図書室のいずれかで作成された１枚の図書利用カードが、各施設共通で貸し出しに利用できるようになりました。（いがまち公民館図書室、島ヶ原公民館図書室は、従来どおりそれぞれの館で登録の必要があります）

１月の読み聞かせ

開催日	会　場	時　間	催　物
７日（水）	ふるさと会館いが小ホール	午前 10 時～ 1 時間程度	絵本の時間
10 日（土）	上野図書館 2 階視聴覚室	午後 2 時～ 30 分程度	おはなしの会　小さい子むき
18 日（日）	阿山公民館図書室 読み聞かせ室	午前 10 時 30 分～ 30 分程度	読み聞かせ会 ＊読み手　読み聞かせボランティア「はあと＆はあと」
20 日（火）	阿山公民館図書室 読み聞かせ室	午前 10 時 30 分～ 30 分程度	読み聞かせ会 ＊読み手　読み聞かせボランティア「はあと＆はあと」
21 日（水）	上野図書館 2 階視聴覚室	午後 3 時～ 30 分程度	えほんの森 ＊読み手　おはなしボランティアグループ「よもよも」
24 日（土）	上野図書館 2 階視聴覚室	午後 2 時～ 30 分程度	おはなしの会　大きい子むき
28 日（水）	青山公民館図書室 絵本のコーナー	午前 10 時 30 分～ 30 分程度	大きな絵本の読み聞かせ会
31 日（土）	大山田公民館図書室 おはなしの部屋	午前 10 時 30 分～ 20 分程度	おはなしたいむ ＊読み手　おはなしボランティア「きらきら」

★絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします。